

がんリハビリテーションと理学療法士の役割

がんリハビリテーションについて

がんリハビリテーションは、がんそのものから生じる症状やがんの治療から生じる問題に対して、予防や改善を図ることが主な目的となります。

がんによる影響

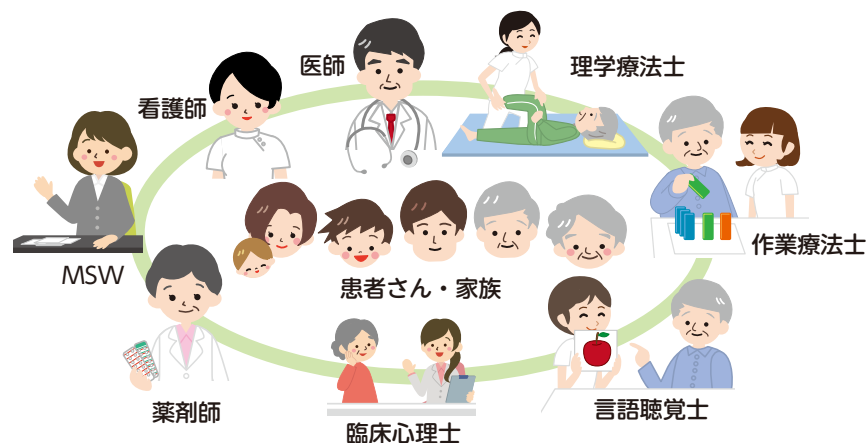
- 脳腫瘍、脳転移による運動麻痺、失語、嚥下障害など
- 脊髄腫瘍による四肢麻痺、対麻痺
- 骨転移による骨折、疼痛など
- 造血器のがんによる全身性の機能低下
- がんそのものからもたらされる神経障害

治療による影響

- 治療に伴う安静による筋力低下、関節拘縮など
- 手術による呼吸器合併症、神経障害、嚥下障害など
- 手術後のリンパ浮腫
- 化学療法による末梢神経障害、疲れやすさ、倦怠感など
- 放射線療法による呼吸器合併症、嚥下障害など

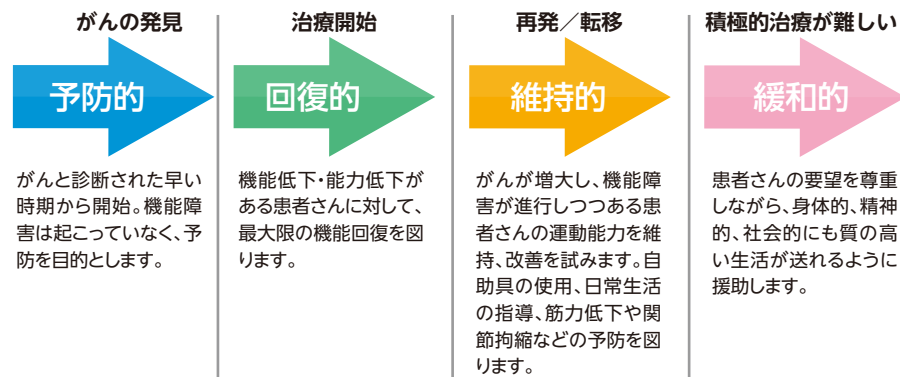
チーム医療

がんリハビリテーションは、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、臨床心理士など、さまざまな専門職種からなるチームとして提供されます。



がんリハビリテーションの分類

がんの病期によってリハビリテーションの目標などが決まってきます。



出典：辻哲也編集(2018)「がんのリハビリテーション」標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻, p23, 医学書院
辻哲也編集(2011)「がんのリハビリテーションマニュアル」周術期から緩和ケアまで, p23-37, 医学書院

理学療法士の役割

がんの予防や治療に向けた身体機能向上、治療に伴う安静やがんの影響による身体機能低下の予防や改善に対して、筋力トレーニングなどの運動療法を提供します。がんや治療により動作に制限が生じた際には、安全に自立できるような動作や症状が緩和されるような姿勢や動作を考えていきます。また、自宅退院に向けて自宅環境や介護のアドバイス、社会資源の導入が必要な場合には多職種とも協働して行なっていきます。

それ以外にも、がんの発症部位や治療により生じる症状や心理的な問題に合わせて、そのひとに必要な理学療法を提供します。

